

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.23 2009.2.15

第三号(24年7月号)から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、今年で60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事からふり返っていきます。

絵と真と漫画

昭和二十四年四月十九日、高松宮殿下を迎えて、第一回天理教全国体育大会開会式が行われた(二十四日まで)。

その翌日、同殿下は、添上郡東里村の開拓地ふるさと村を二代真柱と共にご視察になった。



高松宮と二代真柱(右) 撮影 福原登喜

昭和二十一年から二十二年にかけて旧満州の天理村を引揚げた教信徒三十三家族が、電気もない掘立小屋に住みながら、百町歩(約九十九万二千平方メートル)の山林に鉄

をを入れ、入植後二年の現在約十五町歩(約十四万八千八百平方メートル)を開拓した経過を村長大浜庄市氏からおききになった後、殿下は村内各地を親しくお回りになり、ときには屋内にまで進んでお入りになり、村民に温かい数々のほげましのお言葉をかけられ、村民感激のうちに同五時「ご苦労様でした」とねぎらいのお言葉をのこされて、ふるさと村をご出発、本部に帰られた。

ケンブリッジ大学では、創立以来七百年間、かつて女子の学生を入学させたことがなかった。最初に女子を入学させたのは、一九二一(大正十年)のことで、それも聴講程度で、公式の席へは出さなかった。もちろん卒業しても、正式の学位は与えられなかった。それが一九三九(昭和十四年)には一人の女性を教授に任命するほどになっていた。それは、アーチボルド・ギャロット教授の娘、ミス、ドロシイ・アンニイ・エリザベス・ギャロットという長い名前の女性で、彼女が初めて考古学の教授に任命された時は、

海外ごばなし

イギリスの男女共学

非常な評判になったものである。新制大学制で、女性の大学教授も珍しくないが、東大あたりにレッキとした席を占めるのはいつのことだろうか。



詰将棋 これは将棋初代名人大橋宗桂(二五五〜二六三四)の作った詰将棋で「将棋力草」のつております。持駒は「桂」のみで、十一手で詰みます。(答えはウラ面)

6	5	4	3	2	1
	龍	科			銀
		王	銀		
		歩	歩		
	馬			歩	

教祖殿前の梅

会社の昼休み、本部へ足を運ぶと、教祖殿前右にある梅の木の下に、臨月かと思われる修養科生が携帯電話をかまえて、パチリとやる姿に出くわした。日は二月三日の節分。翌四日は立春、暦では立春から六日後に「春告げ鳥」鶯が鳴きはじめるというところである。

この教祖殿の梅はいつ、どこから来たのだらうか? 『おやさと・いまむかし』(平木一雄著)に、その来歴が載っていた。



教祖殿前の梅と株割りした梅の木(2月6日撮影)

前、この木は住友か鴻池かの財閥が買い取る約束をしたが、場所が出しにくい所であったので、そのまま放置されていたものということだった。平野権蔵はこれを本部へ献上したいと思い、その家の主に交渉して買い取ることにした。植木屋棟梁の植豊は「あの木はとも出せない」と匙を投げたが、権蔵は「あの株を二つに切り割って出せ、あとは(二つをくっつけて)元に戻して植えよ」と言い、棟梁はその通りにして

『道のまないた』(郡山天竜社編)にその由来が書いてあるという。

明治二十四年(一八九一)、(当時の)敷島大教会(現桜井市外山)から初瀬(現桜井市初瀬・長谷寺の門前町)へ行く道で、上村吉三郎(敷島の初代会長)が一本の立派な梅の木を見つけて平野権蔵(郡山初代)に相談した。以

出し終え、当時の教祖殿(御休息所)前に移された、ということ。教祖五年祭が営まれたころである。その後、大正三年(一九一四)に教祖殿(現在の祖霊殿)ができた。宇野たきゑ(越乃国大教会五代会長夫人)によると、「私の子供の頃は、旧教

祖殿(今の祖霊殿)の東側のお庭にあって、芝生には青銅の鶴が二羽遊んでいた。紅梅の位置は昔のままで、教祖殿新築の時も老樹ゆえに枯れるのをおそれて植え替えず大切に囲われてあった」とある。(『おぢば春秋』 昭和三十年刊・越乃国大教会発行)

今の教祖殿が新築になったのは昭和八年(一九三三)で、しばらくして右にこの梅が移され、左側には常緑の松が配置された。しかし三年を過ぎるうちに花が少なくなった。一時は別種の梅に取り替えられたが、庭師の努力によって昔の面影を取り戻し、今のところへ返り咲いた、と記されている。

「陽気」創刊60年記念式典

平成21年4月25日午後2時
おやさとやかた南右第2棟
陽気ホール

記念講演

陽気な人生観

藤本 義一 (作家)

養徳社 Tel. 0743 (62) 4503

おかげさまで60年

『陽気』創刊60年の年(平成21年)にお申込の方に限り「特別購読料」でお読みいただけます
ぜひこの機会に 身近な人にお勧めください

—創刊60年特別購読料— (1部送料共)

半年分…1,300円 1年分…2,400円
2年分…4,500円 3年分…6,500円
4年分…8,500円 5年分…10,000円

お申込は→☎0743 (62) 4503まで

『陽気』創刊60年 記念行事と企画

期間 平成21年1月号より12月号まで
企画行事 創刊60年記念式典・講演会(4月25日)
道柳のつどい(選者を囲んで懇親会・秋予定)
本誌企画 著名人による天理紀行(随時) 創刊60年記念懸賞小説募集 連載随想『天理今昔物語』(天理大学名誉教授・近江昌司氏)
連載漫画『ひのき家の人々』(金巻とよじ氏) 再録・『陽気』60年(先人のおたすけ話など) 『陽気』と私(随時)
出版企画 新刊本 『お道の人の 心にのこる話』(仮題) 『道の八十年』(松村吉太郎著) 4月18日復刊 『人生に終りなし—柏木庫治を語る—』(東中央大教会編)

養徳社 よもやま話

○月○日 「去年は大丈夫だったのに、今年は肥満の判定が下りてしまった」と張り裂けんばかりのお腹をなでながら話す上司。この日は保健師による生活の指導日だった。「お昼ごはん、減らしているのに何でですか?」「夕食は普通に、晩酌しながら食べてるからやわ。返す言葉がない。先はわが身。人の腹見てわが腹を引き締めねば。○月○日 毎日の晩ご飯のメニューには頭を抱える。夕方、参事か」とA女に尋ねたら、逆に質問!と来た。メニュー案を出し合い互いに参考にする始末。結局、寒い時期は鍋に限るということでメニュー会議は終了。

詰将棋解答 3三馬 同金 4四桂 同歩 5一龍 4二駒 (アイ) 3三銀 同玉 4三金 同駒(アイ) 2二龍 にて詰み。

広告を載せませんか

ようばくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで ☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。ますよう、お願い申し上げます。

養徳社